



たかはし きよ はる
高橋喜代春 議員

質問した事項

- 地方交付税、合併特例債について
- 放射能汚染について
- 保育サービスについて

普通地方税一本算定に向けて 厳しい財政を認識し市政運営

高橋議員 33年度からの一本算定に向け、28年度から普通交付税が段階的に削減されることを市はどのように捉えていますか。

市長 八幡平市は、地方交付税をはじめとする依存財源が歳入全体の8割を占めています。合併16年目で本来の普通交付税額となる一本算定を迎えますが、28年度から32年度までの間に、最終的には15億円減る想定をしていることから、厳しい財政運営になるものと認識しています。

高橋議員 現在、国は東日本大震災からの復興や福島原発事故からの復旧事業など、痛手を被っています。今後、地方交付税の削減もあるのではないのでしょうか。介護保険制度で要支援者のサービスを見直し、各市町村に任せるような流れも出てきています。



原子力発電所事故による風評被害を払拭し、安全な牛乳、肉牛の生産につなげるため、牧草地の再生事業を実施していきます

市長 地方交付税は、地方自治の根幹をなすものであり、国でも交付税措置を堅持していくものと考えています。

牧草地の放射能対策
高橋議員 昨年度から畜産農家では牧草地の再生対策を実施していましたが、その結果、生草換算で1ヘクタールあたり22ベクレルを超えた場合、再度牧草地の除染作業をするのですか。

農政課長 県農業公社実施事業で、次年度に基準値を超えた場合、再度公社事業で実施できます。

産業部長 国や県の対応を見極めながら対応します。

の結果、生草換算で1ヘクタールあたり22ベクレルを超えた場合、再度牧草地の除染作業をするのですか。

農政課長 県農業公社実施事業で、次年度に基準値を超えた場合、再度公社事業で実施できます。

産業部長 国や県の対応を見極めながら対応します。

保育サービスの状況
高橋議員 少子化が進む反面、全国的に保育所入所待機児童が増加していますが、市の状況はどのようになっていますか。また、0歳から3歳までの子どもを指導する保育士の状況をどのように捉えていますか。

市長 5月1日現在、入所希望に対して入所できない児童数は、0歳児11人、1歳児5人、2歳児2人で、低年齢児の入所希望が増加傾向にあります。市の全ての保育所は、国が定めた保育士の人数の基準をクリアしていますが、保育士の確保が難しい状況だったと聞いています。国では、本年度から保育士の給与待遇改善を図る臨時特例事業を実施していることから、市でも同事業を活用し、保育士の円滑な確保に努めます。



高齢者の学ぶ意欲や活動への行政支援が必要です
(田頭公民館「曙大学」)

渡辺議員 市の高齢者人口は増加していますが、老人クラブ数や会員数は、減少が続いています。行政の育成と支援の必要性の考えを伺います。

市長 老人クラブ数や会員数の減少は、若い人たちの加入が少ないことが課題です。老人クラブやその年代の皆さんは、地域による見守りや生きがいづくりなど、地域活動の中心的な役割を担っています。これらを包括的に捉えた育成支援を検討する必要があると考えています。

渡辺議員 市の高齢者人口は増加していますが、老人クラブ数や会員数は、減少が続いています。行政の育成と支援の必要性の考えを伺います。

市長 老人クラブ数や会員数の減少は、若い人たちの加入が少ないことが課題です。老人クラブやその年代の皆さんは、地域による見守りや生きがいづくりなど、地域活動の中心的な役割を担っています。これらを包括的に捉えた育成支援を検討する必要があると考えています。

境界杭や視線誘導標損壊の早期修繕を
渡辺議員 市管理の公道や公園などの境界杭倒壊や視線誘導標の破損が各所に見られます。市民から携帯電話などのメールで破損状況を画像提供できるシステムを作っているのでしょうか。

市長 ご提言のとおり、市民の映像を含めた情報提供があった場合は、大切に扱い、協力をいただき、道路維持、補修に努めます。



わたなべ よし みつ
渡辺義光 議員

質問した事項

- 老人クラブの活性化と育成支援について
- 石川一禎・啄木親子の顕彰事業について
- 道路施設などの破損状況情報について
- 「八幡平ふるさと会との連携と支援について」

八幡平市シニア大学開設支援

一体感醸成のため具体的検討

渡辺議員 60歳以上を対象とした「八幡平市シニア大学」を開設し、仲間づくりやリーダー養成などの学習活動で一体感醸成を進めてはどうでしょうか。

市長 仲間づくりの機会を設け、一体感を醸成していくことが必要だと認識し、具体的な事業については検討項目とします。

啄木の父・一禎の生誕の地です。学習活動や歌碑、標柱建立などを進め、郷土の偉人として顕彰し、先生たちも学び、子どもたちにも教えてほしいです。

教育長 設置場所の確保が課題であり、ハード面の整備は、地域や志をもつ皆さんの機運の盛り上がり期待したいと考えています。

※渡辺義光議員が考える川上行政Ⅱ介護や病気になることから対策や対応を川の流れに例えると「川下・川中行政」と捉え、このようにならないために教育や人づくり、心おこしなど、川の上流や源流の視点に立った行政施策



まい た さだ お
米田定男 議員

質問した事項

■「大更駅周辺まちづくり計画」について

「駅周辺まちづくり計画」問う

指摘された点は変えなければ



昨年3月に策定された大更駅周辺及び隣接地域のまちづくり環境整備基本計画書

米田議員 都市計画道路大更駅前線調査設計検討業務委託事業は、予算では約8700万円の巨額事業ですが、委託業者の決定は随意契約によって行われました。極めて異例ですが、本質的な問題は随意契約であれ、一般競争入札であれ、結果

として選定された業者が最もふさわしい業者であるかどうかだと思います。「大更駅周辺及び隣接地域のまちづくり環境整備基本計画」そのものの内容を検証すれば、この業者の能力がふさわしいかどうか判断できることになるので、計

画書に沿って質問します。この計画書の約3分の1は、「対象地域の現況と特性」について述べられています。しかし、その内容は極めて不十分だと言わざるを得ません。例えば、人口や産業、観光などに関わる数値が並んでいます。それは全て西根地区に限定されている点が納得いきません。

さらに、これらの数値については、合併以後の数値は把握できないとの注釈が付いています。合併後、7、8年経過しているのに、その間の数値がなくてもいいような現況把握のデータなどは、そもそも必要の無い数値を並べただけに過ぎないのではないのでしょうか。最大の問題は、そのような数値を並べているのに、それらを総合的に判断した結果としての現況について

小野寺議員 近年、市内でも管理不十分な空き家が増加しており、防災や防火、衛生上、生活環境に影響を与えるようになっていきます。八幡平市でも「空き家等の適正な管理に関する条例」の制定を早期に進めるべきではないでしょうか。

岩手国体の取り組み 具体的調査や対策を行います。条例の制定についても、同検討委員会で検討し、年度内には一定の方向性を示したいと考えています。

教育長 八幡平市では、昨年9月に教育委員会に国体推進室を設置し、11月には市準備委員会を設立しています。7月に日本体育協会から岩手県開催が正式決定され、県が準備委員会から実行委員会へ改組することから、市でも同様に実行委員会へ組織を改め、準備段階から実施段階へ向け、体制の強化を図ります。

競技会場については、テニスは安比高原テニスクラブ、相撲は市総合運動公園体育館（特設土俵を設置）、ライフル射撃はスモールポ

アライフルが田山射撃場、エアライフルとエアピストルは旧田山中学校（特設射場を設置）、ビームライフルとビームピストルは田山小学校体育館、ラグビーは上寄木グラウンド、ゴルフは女子が安比高原ゴルフク

年度内に一定の方向性出す

空き家適正管理条例の制定



おの であしろういち
小野寺昭一 議員

質問した事項

■空き家対策について
■岩手国体の取り組みについて



希望郷いわて国体は、東日本大震災からの復興のシンボルであるとともに、八幡平市を全国にアピールする大会です（昨年11月14日に開催された市準備委員会設立総会・第1回総会）



ふるかわ つよし 議員
古川津好

教育行政演述は委員長自ら

今後考える余地はあります

古川議員 いじめや体罰の問題が発生するたび、教育

教委のありよう

教育委員長 本来であれば、教育委員長である私が述べるべきであると思いますが、八幡平市では今まで教育長が行ってきたとおり、これからも教育長が行う方針でいきたいと思っています。ただし、今後考えていく余地がないというわけではありません。

古川議員 毎年3月定例会で行う教育委員会の「教育行政運営基本方針と重点演述」を八幡平市では教育長が述べています。しかし、他では、教育委員会の責任者である教育委員長自らが行っている市町村もあります。八幡平市でも教育委員長自ら、議会や市民の皆さんに新年度の方針を述べていかげしょうか。



教育行政を一体的に推進していく上で、教育委員会制度は重要な役割を担っています（毎月開かれる定例教育委員会議）

委員会の対応のまずさから、教育委員会再生への提言や意見が出されます。教育委員会のありようをどのように考えますか。

教育委員長 国の教育委員会改革の動向を見守りながら、当教育委員会でも議論を検討を重ね、21世紀の八幡平市を担う人づくりに努めます。

文化財の活用

古川議員 文化財の活用が充実していないようですが、今後どのように進めますか。

教育委員長 本年度から博物館に専任の学芸員2人を配置しました。資料の展示、収集や全市域での教養講座の実施、各種催し物などを企画していきます。

スポーツの推進

古川議員 ニュースポーツなどを広く市民へ指導するためには、どこかに特化していくべきではないですか。

体罰の調査結果

古川議員 昨年度実施した体罰の実態調査の結果はどのようなものでしたか。

教育委員長 24年度に八幡平市では、児童生徒や保護者、教員から体罰と認められる事案の回答はありませんでした。



まつうら ひろゆき 議員
松浦博幸

農業・農村所得倍増目指して

農地集積で規模拡大し向上

松浦議員 先頃、国では成長戦略の農業強化策として「農業・農村所得倍増目標10カ年戦略」を示しました。どのような未来図で農業経営に望めば良いか伺います。

松浦議員 川原目堤のしゅんせつ（泥上げ）工事について、調査の上、事業を実施できないでしょうか。

市長 昨年度から5年先、10年先の地域の農業の未来を地域で計画する地域農業マスタープラン（人・農地プラン）の作成に取り組んでいます。プランに位置付けられた経営体には、規模拡大加算や青年就業給付金、農地集積協力が交付されます。地域農業の将来について座談会での話し合いを

市長 川原目堤は、土砂混流などで、底面に堆積している土砂と推測され、貯水量は減少していると想定されます。23年度に県にしゅんせつ事業の相談をしましたが、補助対象外という回答をいただいています。今後機会あるごとに、県へ事業要望していきます。

防災教育の指導と訓練内容

松浦議員 市内小中学校での防災教育の指導と防災訓練の実施状況はどのように

なっていますか。

教育長 市内全ての小中学校で、地震と火災を想定した避難訓練を年に最低1回ずつ行っているほか、総合的な学習の時間などで岩手山噴火の仕組みや発生時の

対応、砂防ダムの役割などの重要性について、体験的な活動を通して探究的に学習を進めています。防災教育を自校の教育課程に明確に位置付け、計画的、系統的に実施しています。



防災への取り組みは学校で取り組むだけでなく、地域と学校が一体になって取り組むことも重要です（昨年11月11日に柏台小学校周辺で実施された火災防御訓練）



たかはし えつ ろう
高橋悦郎 議員

行政評価シートの公表

来年度から公表する予定

高橋議員 行政評価システムは、県内全ての市が取り組んでいます。このシステムは、自治体が進める事業や施策を有効性、達成度、効率性の観点から点検、評価するとともに、市民に対してその説明責任や市民参加の行政運営を行うものです。八幡平市は導入から既に7年も経過していますが、公表されていないのはなぜですか。

市長 19年度から実施し、試行錯誤を繰り返してきました。23年度は東日本震災後の被災地支援対応などで一時中断したため、取り組みが遅れたものです。昨年度から進め方を再構築し、本格的に取り組んでいます。**高橋議員** 行政評価について一つの事業を例に挙げて伺います。安代地区の市営根石牧野と丑山牧野を森林化して林野庁に返還する事



遊休化により国に原状を回復して返還するための森林化が進められている丑山牧野

業が進められていますが、事業費は約1億円予定されています。この二つの牧野の賃借料は、年に約100万円、100年分の賃借料に相当する事業費です。行政評価の観点から見れば、自然の力で森林化する選択肢もあるべきと考えます。

企画総務部長 本年度、この事業の行政評価シートを提出してもらう方向で検討します。

高橋議員 いつから行政評価の公表をしますか。

副市長 まだ改善が必要であり、来年度に公表する予定です。

新西根病院に小児科・耳鼻科の設置

高橋議員 新しい西根病院を建設するとき、市民からの要望が多い小児科や耳鼻咽喉科の設置を前向きに努力するべきではないでしょうか。また、建設場所はどこを考えていますか。

市長 医師不足の中、専門医の確保が大きな課題です。医大や中央病院との医師派遣要請の協議の中で検討します。新病院建設では、将来診療科目を増やせる余裕のある施設整備を行います。建設場所については、西根病院あり方検討委員会から「地域医療を確保する観点から市が最終的に判断すること」と報告されていますが、まだ決まっています。同委員会の議論を踏まえ、早急に建設場所の選定を進めていきます。



現在は松川大橋付近で車両が制限され、網張―松川間は登山道として歩行者だけが通行可能となっている通称奥産道

工事再開は現実的に難しい

高橋議員 電気自動車やハイブリット車などクリーンエネルギー開発も進む中で、県道雫石東八幡平線（網張―松川間、通称奥産道）は全線開通になってこそ八幡平市の観光振興の一翼を担うものと思います。工事再開について国や県への要望活動を行うべきだと思います。見解を伺います。

市長 車両を対象とした全線開通に向けた工事再開は現実的には大変難しいです。市としては、今後松川側での車両通行制限区間の利用者を限定した通行の試行や

電気自動車の運行の可能性など、クリーンエネルギーの活用検討を含めて、自然環境の保全と同時に、観光振興も図られるよう、整備済み区間の有効活用について県に働き掛けていきたいと考えています。

高橋議員 滞在型観光を進めるならば車両での全線開通を考えていくべきだと思いますが、市長はどうして駄目だということですか。

市長 松川側の赤川の源流までは整備をして車両が通れるよう、県に要望はしています。

高橋議員 旧松尾村に生まれ育ち、先人の願いを遂行していくため、雫石町、滝沢村、八幡平市の議員有志で、同県道の道路促進議員連盟を1月に設立しました。今後、国や県に働き掛けを進めていきますので、ご理解いただきたいと思います。

高橋議員 旧松尾村に生まれ育ち、先人の願いを遂行していくため、雫石町、滝沢村、八幡平市の議員有志で、同県道の道路促進議員連盟を1月に設立しました。今後、国や県に働き掛けを進めていきますので、ご理解いただきたいと思います。

奥産道車両全線開通に向けて



たかはし みつ ゆき
高橋光幸 議員

質問した事項

- 県道雫石東八幡平線（通称奥産道）について
- 小水力など発電導入について

小水力発電の今後

高橋議員 小水力発電設備の新規建設など、導入推進について思案していますか。

市長 八幡平市が地熱発電や水力発電など「再生可能エネルギーの町」としてイメージアップを図ることで、教育旅行などに対応でき、観光振興にもつながると考えています。昨年7月から再生可能エネルギーの固定価格買い取り制度が始まったことで、有利な補助がなくなったため、市としての新規建設は見合わせていますが、民間が実施するものにはできる限り支援します。

高橋議員 市内には小水力発電設備の建設候補地がありますが、見解を伺います。

市長 電力会社の受電能力の問題があり、関係機関と協議中です。解決できれば事業には全面協力します。



三浦 ただし 議員

質問した事項

- 地域防災計画について
- 少子化・人口減少対策について

防災専門官の採用時期と任期

10月から1年更新の5年継続

三浦議員 内閣府の有識者検討会が5月16日、火山の大規模噴火に備えるため、都道府県を越えた広域避難計画をつくる必要があるとの提言をまとめました。対象は岩手山などの47の活火山です。市では、本年度防災専門官の採用を計画していますが、時期や任期、業務内容などを伺います。

市長 防災専門官は10月からの採用予定で、任期は1年更新の5年継続を基本とします。総務課消防防災係に配置し、当面は自主防災組織の育成や地域防災計画の見直しなどを担当します。

三浦議員 防災力の強化のため、防災専門官を含めた市と消防、警察、自衛隊による連携が必要ではないでしょうか。

企画総務部長 来年度、県総合防災訓練が八幡平市で実施される予定であり、本



市の防災拠点としても、来年の完成が待たれる新庁舎の建設現場

年度から県や自衛隊、警察とは打ち合わせを行っています。

三浦議員 見直しが行われる地域防災計画の中で、新庁舎は防災拠点になり得るのでしょうか。

副市長 新庁舎には当然災害対策本部機能があるものと

で、通信に係るものを一極集中し、自衛隊や警察などの関係機関も入って災害対応できる庁舎を目指します。

人口減少対策に庁内組織を拡充

三浦議員 少子化、人口減少が進む中、市では定住化

の促進などの対策は講じていますが、他には何がありますか。また、人口が減っている時の予算の組み方をどのように考えていますか。

市長 八幡平市は観光資源や自然エネルギーを利用して交流人口を増やしていくことが最大の人口減少対策と考えています。また、人口減少していくことを前提に、予算編成などを進めなければならぬと思います。

三浦議員 群馬県桐生市では、市役所職員で構成された「人口減少対策委員会」が要因分析などを行い、施策を取りまとめた提言書を市長に提出しました。八幡平市でも同様に、庁内に組織を設けて進めるべきではないでしょうか。

副市長 現在ある「八幡平市定住促進庁内委員会」の所掌事務を拡充する方向で検討していきます。



市の将来像「農と輝の大地」の実現に向け、北東北の新交流拠点を目指します（十和田八幡平国立公園・八幡沼）

工藤議員 2期8年目を迎えて、これまでの市政運営に対する市長の自己評価を伺います。

市長 総合計画前期基本計画では、旧3町村の均衡ある発展と一体感の醸成を図りつつ、生活環境の向上や保健、福祉、医療の充実、教育施設の整備など、各施策において順調に目標達成が図られました。

3年目を迎えている後期基本計画では、環境基本条例の策定や市内全域へのコミュニティバスの運行、各小学校区への学童保育ク

ラブの設置などを実施したほか、それを支える財政面でも将来負担比率を抑えるなど、着実に事業の推進を図ってきたものと自負しています。

工藤議員 今後の八幡平市の進むべき道、将来像についてのを伺います。

市長 「農と輝の大地」の実現に向け、農業や観光、商工業の発展による北東北の交流新拠点を目指すべきと考えます。

工藤議員 大更駅周辺整備では、何よりも優先して駅前の渋滞解消をする必要があります。ロータリーと駅東側との自由通路の早期設置を強く要望します。

市長 この計画は平成14年に基本的な構想を策定したときからJRRと協議を進めており、肅々と計画通りに進めていけるものと思っています。

地域福祉計画の個別計画の一つである「健康づくり21プラン」については、市民一人一人が自らの健康づくりに取り組めるよう、地域関係者と行政が連携し、社会全体として個人を支援していくことが重要であると認識しています。今後の事業展開のキーワードは、健康づくりサポーターや食生活改善推進員などの人材育成にあると考えています。



工藤 つよし 議員

質問した事項

- 市長の今までの市政運営に対する自己評価と八幡平市の将来像について
- 八幡平市地域福祉計画について

今後の八幡平市の将来像は

北東北の交流新拠点を目指す

地域福祉計画の実現

工藤議員 八幡平市地域福祉計画を実現させるためには、何が必要と考えますか。

市長 自助、共助、公助のバランスを高い水準で維持していくことが大切であり、市民や地域ができること、行政が行うべきことを明確化し、それぞれが支え合うことで、地域福祉が向上していくものと考えています。